

積水ハウス株式会社 様



SEKISUI HOUSE

<積水ハウス株式会社について>

1960年に積水化学工業のハウス事業部から分社独立し、戸建・分譲住宅の設計・施工を中心に幅広い事業を展開。2008年には業界初の「エコ・ファースト」認定企業となり、住宅業界のリーディングカンパニーとして持続可能な社会の実現を推進している。
従業員数 15,346名 (平成25年4月1日現在)、連結売上高 1兆6138億160万円(平成25年1月期)。

積水ハウス 総合住宅研究所について

1990年に開設された、積水ハウスの住まいづくりに関するハード・ソフト両分野の研究開発拠点。住宅の基本性能の検証や評価をはじめ、新しい構・工法の研究開発、健康で安全安心、快適な生活を目指した様々な研究開発が行われている。敷地内では体験学習施設「納得工房」が一般に無料開放されており、住み手・作り手・研究者が一体となって理想の住まいを捜し求めるための場として活発な情報受発信が行われている。



「オフィスから遠隔地の無人サーバーに常駐接続しています。さらにワンタイム接続で契約ベンダーにサーバーメンテナンスも行ってもらっています。常駐もワンタイムも使える ISL Online のおかげで、手間も時間もコストも大幅に減らしました」

積水ハウス株式会社は、京都で運用している IT インフラを大阪本社から遠隔管理するために ISL Online を導入。取引のある複数の IT ベンダーにも活用してもらうことで、大幅な効率化と保守費用の削減を実現しています。同社設計部 設計システム室の岩崎氏(写真右)に詳しいお話を伺いました。

積水ハウス株式会社 設計部 設計システム室 岩崎氏

※写真左：弊社営業の井上

もくじ

1. ISL Online をどのように使っているか
2. 10分で済むことに数時間かかっていた
3. ISL の効果 1：無駄な時間とストレスが無くなった
4. ISL の効果 2：保守費用を削減できた
5. ISL の効果 3：作業履歴を残すことができるようになった
6. ユーザー側で用意し、IT ベンダーに提案する

ISL Online をどのように使っているか

— はじめに、現在 ISL Online をどのように使っているかを教えてください。

積水ハウスでは、大阪本社と京都府木津川市にある「総合住宅研究所」の2拠点で技術系の IT インフラを運用しています。私は普段は大阪本社にいますが、京都の研究所にあるサーバーの管理も担当しています。

ISL Online は、大阪から京都のサーバーを遠隔管理する時に使っています。

研究所内の IT インフラは、約 30 台のサーバー、ストレージで構成されています。ファイルサーバーやアプリケーションサーバーなど用途はさまざまです。VMware で仮想化を施しているものもあり、ゲスト OS は Unix 等含めて数十になります。

ISL Online のライセンスは 2 つ購入しました。1 つは私の分、もう 1 つは保守や運用サポートなどで日常やりとりをしている、複数の IT ベンダーの分です。必要に応じてワンタイムパスワードをこちらから発行し、ベンダーは自社オフィスから、私は大阪本社からそれぞれリモートコントロールで京都に

あるサーバーを操作し、メンテナンスや障害対応などを行っています。



10分で済むことに数時間かかっていた

— ISL Online の導入経緯を教えてください。

私は 2011 年の春に、これまで在籍していた京都から大阪本社に転勤になりました。それに伴い、大阪と京都両方の IT インフラ機器管理を担当することになりました。

私が異動しても京都に常駐スタッフは残っていました。しかしあくまで窓口担当であり、IT に精通しているわけではありません。ですからメンテナンスや

障害対応の為に週に何度か通わなくては行けませんでした。

たとえばサーバーの挙動がおかしいという連絡が入り、大阪から京都へ移動。サーバーを再起動させれば良いケースだったのですぐに解決し、大阪に戻る。たった 10 分で済むことで、移動だけで往復 2 時間以上かかっていた。

京都の IT インフラについて取引をしている IT ベンダーは約 20 社ありましたが、彼らとの調整にも大変手間がかかっていた。私とベンダーの両方がそろって京都に足を運べる日時は限られており、その結果、私だけが京都に行き、電話やメールでベンダーからの指示を受けながら作業を行うケースが増えました。

メールでの指示通りに管理メニューを操作する、電話で説明を聞きながら UNIX のコマンドを打つ、ログファイルを出力して送信し、分析してもらう。このような作業は両者にストレスがかりました。私自身、専門的な作業は不慣れですし、ベンダー側も直接作業をしたほうが早いと思っていたでしょう。

そのような状況の中、あるベンダーから以下のような提案を受けました。

- 自分たちが納入しているアプリケーションの保守作業を、ISL Online というリモートコントロールツールを使って行いたい。
- ISL Online は自分たちがライセンスを保有しており、積水ハウスの費用負担は無い。ワンタイムパスワードで外部から遠隔接続できるので、セキュリティも一定レベルは担保される。

試しに OK を出して遠隔操作による保守作業をやってもらったところ、これは便利なツールだとすぐにわかりました。ぜひ私自身も使いたい、このツールがあれば大阪に居ながら京都のサーバーを遠隔操作できる。他のベンダーにも使ってもらえ

